

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790500054		
法人名	社会福祉法人 善隣福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 愛誠園		
所在地	沖縄県宜野湾市伊佐2-1-6 グランドステージMG地下1階		
自己評価作成日	平成24年10月21日	評価結果市町村受理日	平成25年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku_ip/47/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosvCd=4790500054-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成24年度11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日安心して快適に生活できるよう、入居者それぞれのペースに合わせた、介助、支援を行っている。入居者の出来る部分を引き出し、共に助け合いながら役割をさせさせています。やる気、自信につながるよう努めています。入居者とのコミュニケーション大切にしています。毎月、各担当者が情報提供を郵送しホームでの生活を知っていただき家族への安心に繋げています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所内は対面式のキッチンにより利用者の様子が一望でき、段差のないバリアフリー構造により、利用者に配慮された安全な造りとなっている。利用者の意見を取り入れながら職員が毎日の献立を立て、すべての食事を職員が調理している。一連の食事づくりに職員と利用者が共に関わり、同じテーブルで職員と一緒に食事をしている。そのことにより食後の口腔ケア、排せつがスムーズに行われ、利用者自身の日々の生活づくりが整えられている。定期的な会議やミーティングにより、職員同士が利用者の思いを把握し、「本人の意志の尊重」という事業所の理念に基づき身体拘束をしないケアに取り組まれている。介護福祉士資格修得後は、正職員への登用等の雇用確保や職員の意見を受けて勤務時間を変更する等、職員の福利厚生等にも力を入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日：平成25年1月9日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に提示し、管理者、職員で理解し、日々のケア活動に活かしている。常に入居者目線で意識し、安心して生活ができるよう取り組んでいる。	開設以来現在の理念を掲げてきたが、これまでの事業所の実践経験と職員の思いを踏まえて「笑顔あふれる」「家族のように」を追加する予定としている。事業所内の掲示だけでなく日頃のミーティングにおいて入居者の意志・人格・人権を尊重することを職員全員で確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会等に地域の方を招き交流を図っている。週1回入居者の友達が病院(リハビリ)への送迎をしていただいている。	敬老会等の事業所の行事に地域住民に参加を呼びかけたり、自治会主催の納涼祭を見学して交流を深めている。また、職員が事業所周辺の地域清掃に参加している。周辺の散歩等を通して地域の住民とあいさつを交わしているが、日常的に入居者と住民が交流する機会は少ない。	地域密着型サービスの理念に基づき、今後はより積極的に日常的に地域住民との交流を図り、これまでの馴染みのある人間関係や場所とつながりを大切にしながら地域の中で最期まで利用者を支えていく取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議の中で情報の交流を行っている。相談に応じ、地域の方々に貢献できるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より2ヶ月に1回推進会議開催。その月に行った行事、入居者状況、事故、ヒヤリの報告をしている。互いに意見交換を行い、入居者にとって住みよい環境作りに努めている。	昨年は3、4か月での開催であったが、今年の3月より2か月に1回定期的に開催されている。外部評価の結果や事故報告・ヒヤリハットに関する報告を行っているが委員からの意見は少ない。また、利用者の参加もなく、新しい議題を話し合う機会が少ない。	今年より定期的に開催されている。利用者の参加は会議の構成員として義務づけられているので、今後は利用者の参加及びサービスの向上に向けた話し合いや提案の工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市のグループホーム連絡会を年2回開催。又、その都、度解らない時は相談してアドバイスを受けている。	年2回開催されるグループホーム連絡会において、市町村との意見交換を行っている。介護保険制度の運用等について電話で照会することが多く、市町村へ直接出向くことは少ない。市町村から介護予防教室やショートステイの受入等の要望はない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアは十分理解している。一人ひとりの状態に合わせ、安全面に配慮したり、見守りを行い、日中は玄関は誰でも自由に入出りできるようにしている。不適切な発言等がみられた時には、注意をし、より良い支援に努めている。	事業所の理念に基づき身体拘束をしないケアに日々取り組んでいる。いつでも利用者や家族が出入りできるような昼間は正面玄関及び勝手口の鍵を開けている。夜間時のベッドからの立ち上がりに迅速に対応するため、現在7名の利用者の居室にセンサーを設置している。	

沖縄県（認知症対応型共同生活介護事業所愛誠園）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の研修に参加しミーティングにて話し合い、不適切な言動がないよう、職員全体で虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料は綴ってありますが、目を通す事はない。中々、学ぶ機会が少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分理解して頂けるように説明はしているが、一旦持ち帰ってもらい、納得した上で同意をもらっている。今までの契約に関して、疑義や質問等は出ていない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情申し立ての窓口を説明している。意見箱を玄関先に設置しているが、殆ど利用されていない。面会時には、何気なく聞くようにしている。意見、要望があれば、ミーティングで話し合っている。	職員と個別に散歩する時には、本人の思いを聴くようにしている。昨年より家族へ利用者の生活状況を記した情報提供書を毎月送付している。面会時にはこれらの情報等をもとに家族から要望等を聞いている。行事の際に家族の参加を促しているが家族同志の交流の機会は少ない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の提案は叶えるように努めている。面会時に家族とコミュニケーション図りながら、意見、提案を聞く機会を設けて、反映させている。	毎月定期的に職員ミーティングが開催され、職員からの意見は主に会議の場で提案されている。「夜勤時の負担が大きい」との意見を受け、勤務時間帯を変更したり、夜間時、ベッドからの立ち上がりに迅速に対応するためセンサーマットの物品購入等につながった。介護福祉士資格を取得した職員には正職員への登用の機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務上の問題等の相談を行っている。資格が取れるよう法人で、勉強会の場を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、講演会等に参加して、職員の知識や意欲の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会に参加している。研修に参加し交流を図り、運営面、サービス面に関して情報交換を行い、質の向上を目指している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族との生活状況又、問題点、ニーズを聴ける雰囲気作りに努めて不安を受けとめ信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に十分話し合い、家族の要望や悩みを傾聴し受容、助言を行っている。安心して相談できるような関わりを大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本的にはグループホームは、他の介護保険サービスは利用できない。本人と家族の話をじっくり聞き、その時必要な支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	あえて役割等は決めず、その日の入居者の状況に合わせ、その日に出来ることを一緒に行い支え合う関係であるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問の際、状況報告を行ったり、月1回は状況報告を文書で郵送し情報の共有化しながら、協力関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、利用していたデイサービスに出向いたり、時には馴染みの場所、思い出の場所等に出かけ知人と会う機会を持ち、関係が途切れないようにしている。	面会時に来られた利用者の知人や地元出身の職員からこれまでの本人の生活情報を得ている。これらの情報をもとに本人自身が一番輝いていた頃の話題を職員が提供して自慢してもらう心がけている。家族や近隣の友人等の高齢化により、自宅へ戻り馴染みの人と交流する機会が少なくなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係、個々の心身状態、気分、感情等の特徴は理解している。入居者が孤立しないように見守りを行い、その状況に合わせ、職員が調整役になり支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても訪問したり、相談をうけたり、入院したと知れば見舞いに行ったりと交流を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中で、一人ひとりの意向を把握し、安心した生活が過ごせるよう職員で共有している。	日頃の食事場面の様子を観察して本人が好まない食べ物が提供されているのではないかと推察し、その後本人へ直接希望する食べ物を言うってもらうよう働きかけて実際に本人が希望するものへ変更した。意志の確認が難しい場合は、家族から情報を得て本人が行きたい場所等を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、今までの生活習慣、本人、家族を始めサービス提供関係者より情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、個々の日々の暮らしに係り、共に行いその情報、言動等によりその場面の心身の状況の把握に努め職員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族のニーズを把握した上で日々、近くで関わりのある職員から要望を取り入れ、質の向上に努めている。	更新時期に利用者本人及び家族参加のもと会議を行っている。変更が求められる場合は、それ以外の時期にも見直しを行っている。3か月ごとにモニタリングを実施している。利用者を担当する職員が介護計画の支援内容を確認し、職員ミーティングや日々の申し送りの機会に介護支援専門員へ情報を提供している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の変化があった場合には、個人の記録簿、申し送りに記録して職員で把握できるように情報を共有している。月1回のミーティングでも話し合い、より良い介護計画作成に努めている。		

沖縄県（認知症対応型共同生活介護事業所愛誠園）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要時に応じて病院受診を行ったり、本人、家族の要望を聞き入れ、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに参加して、交流に努めているが、生活に生かせるまでには至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院は原則として家族が行っている。必要に応じて、記録を提供し診断の参考にして頂いている。今後は、本人、家族と相談しながら、地域の医療機関に往診依頼をしていく。	希望するかかりつけ医へ家族で受診支援を行っているが、ボランティアや事業所に対応している事例もある。受診時に管理者や介護支援専門員が作成した情報提供書等を持参することもある。受診結果は家族等から口頭で報告を受け、職員は申し送りにて共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調を観察しながら、早期発見に取り組んでいる。体調等で変化があった場合には、かかりつけの病院へ連絡をしてアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院には家族、病院側との情報交換に努め、本人が不安なく安心して過ごせるようにしている。又、早期の退院に向けて話し合い、相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ミーティングでも看取りの取り組みについて、話し合っている。本人、家族の意向を踏まえ、状態の変化に応じ、随時、対応を行っている。納得した最期が迎えられようと考えている。	現在は家族の希望で医療機関へ繋げているが、重度化や看取りについて家族との話し合いも行われ、職員間でも家族の希望があれば対応したいと考え、研修や医師との話し合いを検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、職員は落ち着いて管理者、家族へ連絡し救急対応をしている。同法人全体で救命救急の講習会を開き学ぶ機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施し、避難場所、避難経路を確認している。慌てない体制を確認している。飲料水、紙オムツを備えている。	スプリンクラー及び一斉通報装置が設置され、災害マニュアルや備蓄も確認できる。昼間と夜間を想定した2回の避難訓練を実施しているが利用者がなかなか起きてくれない状況もあった。地域住民の訓練参加はなかった。	今後は同じ建物に居住する住民の協力体制を得ながら、更に具体的な訓練を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者と家族のような関係で接している。言葉使いや、態度に十分配慮し、常に人生の先輩、目上の方と言う気持ちを忘れず接している。	常に利用者の尊厳に留意した言葉や態度で接するようにしているが、本人や家族の希望で「お母さん」と呼ぶこともある。命令調な声掛けや嫌がる言葉は使わないよう配慮している。また、危険だからとすぐに利用者の行動を静止することのないように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の状態、その時の、表情や反応から思いを組み取るよう努めている。自己表現が困難な方は、職員から言葉をかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れは決まっている。個々のペースに合わせた支援ができるよう配慮し、無理維持はしない。何かしたいと希望がある場合には、できる限り取り入れて、満足した日々が送れるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で決められる方は自分なりのおしゃれを楽しみ、できない方は本人の要望を聞きながら対応し、その方らしい身だしなみを配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が調理に参加するのは困難になっている。メニューは、入居者に聞きながら、献立作成をしている。個々の状態に合わせて、できる範囲の準備や片づけをして頂いている。	利用者は職員と一緒に、毎食の食事作りに参加している。現在は、火や包丁は使えないが、それぞれの力を発揮できるように、野菜の下ごしらえ、盛り付け、片付け等を職員が支援している。利用者の希望を取り入れた献立は「とても美味しい」との意見もあり、職員と共に食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日チェックし記録をしている。一人ひとりの咀嚼、嚥下状態に合わせた、食事形態、水分も個々の好みに合わせ、美味しく飲用できるよう提供している。		

沖縄県（認知症対応型共同生活介護事業所愛誠園）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の状態合わせ、毎食の後口腔ケア（促し、見守り、支援）を行い、義歯の方は入眠時には洗浄対応を行い、清潔保持に努めている。必要時には訪問受診につなげている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、促し、誘導を行う。日中に限り、全入居者はトイレで排泄を行い、失禁等で気分を害さないように努めている。	昼間は全員トイレへ誘導するようにしている。排せつパターンを把握して、布パンツ等へ改善した利用者も数名いる。同性介助が出来ない場合は本人の了解を得るようにして、排せつの失敗時は本人が傷つかないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況の記録を行い、水分補給、食事面にも配慮している。必要な方は処方された便秘薬を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週3回、午前中としている。身体状況、希望によっては、毎日入っている入居者もいる。必要時に合わせている。	入浴は週3回午前中に実施されている。同性で対応出来ない場合は、本人の了解を確認してから、介助をするようにしている。本人の華やかな時代の話、楽しかった事、息子の話等しながら入浴介助をすると「ありがとう」と喜び、入浴拒否が改善された例もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく離床を促しているが、それぞれの希望で好きな時間、自由に休んで頂き、体調を崩さないよう配慮している。自分で意思表示が出来ない方は、職員が状況把握し休んでもらいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法、用量の説明書を確認できるように、個々の薬セット容器に貼り付けてある。薬の変更があった場合には、申し送り共有する。症状変化があった場合には、主治医に連絡して指示を頂く。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の物は自分で、出来る事を無理維持することなく（食後の食器洗い、洗濯量み等）手伝って頂いている。季節に合った塗り絵、貼り絵、時には簡単な計算問題を解いた後は、好きなコーヒー、お茶を楽しめるよう努めている。		

沖縄県（認知症対応型共同生活介護事業所愛誠園）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望の外出に添えるのは、困難である為、家族にも協力を得ている。天気に応じて、散歩したり、ドライブに出かけ、気分転換を図る。散歩しながら、近隣の豆腐屋さんに行き、交流を図れるよう努めている。	家族の協力も得ながら利用者の希望に応じて、外食や法事、結婚式等、外出支援に努めている。ドライブや近所の散歩、買い物等、地域の人と交流が図れるようにしている。週3、4回外出したり、体調によってはベランダで外気浴で対応する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が、お金の管理ができない為、持たせないようにと家族に申し出ているが、お金を持つ事で安心される方は、使わないが持っていて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙のやり取りができるよう支援体制はできているが、電話をしたいと言う訴えはない。家族から電話がかかってきた場合は対応している。毎年、年賀状、暑中見舞いを書いて頂き、書けない方は代筆支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の作品、写真をかざっている。十分に光、照明等に気配りをして落ち着いた環境作りに努めている。空調面では、身体に負担のないようにしているが、個々に合わせるのは困難の時もある。	事業所は地下に位置しているが、内部は明るく広い。共用空間は、安全性や衛生面に配慮されている。対面式キッチン、調理しながら全体が見渡せ、職員は利用者の様子を確認しながら、声掛けをしている。リスクマネジメント上も良い作りになっている。トイレも3箇所設置されて脱衣所の空調にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて新聞、本を読んだり、テレビを観たり、各自、自由に過ごしている。ホール、玄関等に椅子を配置し、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物、馴染みな物を持って来て頂き自宅と違和感なく、心地よく生活ができるよう本人、家族と相談しながら部屋作りを行っている。	各部屋に作り付けの大きめな収納が備え付けられている。本人が居心地よく過ごせるように馴染みの籐家具やテレビを持ち込んだり、ぬいぐるみや文化刺繍を飾っている。認知症の症状に配慮した環境作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべてバリアフリーになっている。安全が確保できるようホール、トイレ、浴室に手摺りを設置し、場所が解りやすいよう文字で表示しています。居室の出入り口には名前の表示してある。		